

V 燃料チップの地域内安定供給体制整備のための研究

(実施期間：令和2年度～令和4年度 予算区分：県単 担当：桐林真人)

1 目的

若桜町における地域内のエネルギー資源を有効活用するモデル的な取り組み（地域内エコシステム）を支援するため、チップ原木の水管理の手法（乾燥マニュアル作成）と、価格設定に役立つ簡易な含水率判定手法の確立を目指す。

2 実施概要

(1) 方法

葉枯らしによるスギ原木の乾燥について、若桜町吉川地内で斜面方角(南北)や伐採時期(7月と9月)の別に調べた(各6本、計18本 写真1)。また、市街地と山林内の土場におけるスギ丸太の乾燥の進行についても調査した(同町若桜地内21本および同町吉川地内15本。いずれも8月下旬乾燥開始 写真2)。全幹ならびに丸太の乾燥の推移は、定点間での応力波伝搬時間計測による、期首値との相対比較で把握した。試験体の一部は切片を採取して含水率を算定した。

(2) 結果

葉枯らしでは、南向き斜面で7月に開始すると好適であることが確認された(図1)。また、はい積み状態の丸太では、山土場では丸太が乾燥しないことが明らかになった(図2)。これらの結果は地域内エコシステム検討協議会で説明し、次年度に向けた課題抽出に資した。

3 結果の図表と研究の様子



写真1 葉枯らしの状況



写真2 市街地の土場(左)と山林内の土場(右)でのはい積み状況

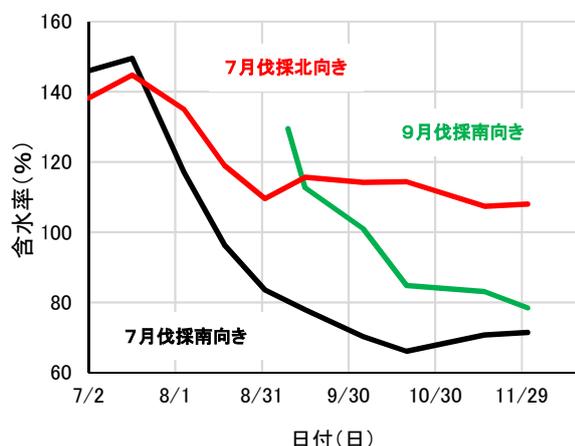


図1 葉枯らし開始時期や斜面方角による乾燥の差

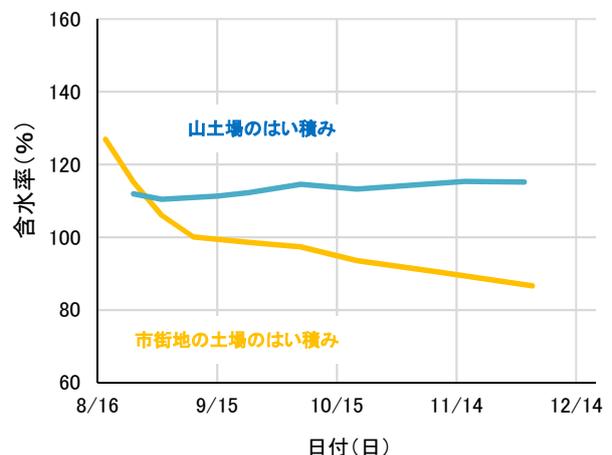


図2 場所の違いによる丸太の乾燥の差